

好敵手を蹴散らす

毎回、前に後に現れる『エンピツ氏』を真っ二つ。

2018年1月28日 江ノ島マラソン10マイル(16キロ)

この星に生まれてから2年
ル君は私のベッドに寝ている。

小さい頃からピューマのぬ
からニコッと顔を出す。いつも
ンガル君は『腰元』とも呼ばれ

今、パソコン横にある空き段
の動向を窺っている。

と、思ったら突然ダンボールカ
イレに向かって走った。すばやい動きだ。

おしっこのようだ。

ベンガル君は、成長するにつれて歩く姿がますますヒョウのようだ。足の筋
肉のたくましさに見惚れてしまう。足は長い。うらやましい。

今度生まれるときはベンガルになりたいと思う日々を送っている。

マラソン大会に向けたランニングの練習は昨年10月の半ばから始まった。

涼しい日々が突然訪れ、さあ走りなさいと風が叫んでいるようだった。

海岸沿いの遊歩道を走るうち、海の誘惑には勝てずランニングウェアのま
ま海にどぼん。水陸両用アスリートである。

5月から10月までは毎朝海でスイミング。

半年ぶりに走るランニングは以外にスムーズな走りで新鮮だ。

そして、1月28日江ノ島マラソン(湘南藤沢市民マラソン)16キロのス
タートを迎える。

マラソン参加者が毎年増え続けているようで、募集と共にすぐに定員となり



目を迎えようとする猫のベンガ

いぐるみを着用してベッドの中
私と一緒になので我が家の愛猫べ
てている。

ボールの中に正座してジーと私

ら飛び出し、階段の踊り場にあるト

締め切りである。お金を出して走らせて頂くという感じである。

マラソン当日朝、江ノ島ヨットハーバー前のスタート地点は満員御礼で近づく事さえままならず、どんどん後方へ追いやられる。

スタートのピストル音も聞こえないまま競技は始まっているようだ。

号砲がなって動かないまま4～5分ほど経過した。

ゆっくり歩くうちスタート地点があらわれた。

スタートを切った後も満員電車さながら、人ごみにまぜまぜさせられ江ノ島の橋をゆっくり進む。空は青く風もない。急いでいる訳でもないで流れの中に身をおき瞑想に耽る。

歳をとると、瞑想時間が長くなるような気がする。瞑想の中の出来事に勝手に入り込み取り返しがつかない事態に慌てる事しばしば。

周りを見てみるとランニング老人があちらこちらに散見できる。表情から悟りを開いている様子がうかがえる。

妄想か瞑想か？判別がむずかしいご仁も多い。

最近、脚力だけでなく視力が弱ってきたようだ。暗くなると暗闇が騒ぎだして行けない。

車の運転で薄暗い夕刻は少し怖い。前世に私は忍びの世界に身をおいていたと思っていたが油断はできなくなって来た。

そろそろ年貢のおさめ時かもしれない。お迎えのささやきが聞こえてきそう。しかし誰も訪ねてこないより来て頂けるなら嬉しい。

目眩が頻繁に起きようになっている。後頭部を誰かにつかまれているような気がする。時々だれかいるのか？と振り返るが誰もいない。

それでも私は走る。そして泳ぐ。それが私に与えられた任務かもしれない。襻をつなぐとはそういうものかもしれない。

と、とりあえず言ってみたがどうだい。

走る事にそれほど喜びを感じている訳ではないが、とにかく走る。

残りはまだ10キロ以上あるようだ。6キロを走り終えた事になる。長距離ランニングでは、折り返しまでは流れに身を任せ瞑想にふける。

折り返し地点を過ぎると気持が楽になる。これから先は走るたびにゴールまでの距離が減って行くのだから嬉しい。

いよいよ終盤4キロの地点を走っていた時。
まさにその時、突然沿道から山の怒りのような、噴火にも似た応援の叫び、
「みえきさん！」 これでもかと道一杯のランナーに鋭く降りかかる。無心の境地で走っていた私は驚き目覚め、我にかえった。

見れば、昔なつかし兼子整骨院の院長。あのでかい声。あいかわらず太く、でかい声が鳴り響きわたっていた。顔もでかいが声は破壊的だ。兼子整骨院の治療もあって足、腰、膝、今ではどこにも痛い所がない。強いて言えば耳が少し痛い。大声には気をつけよう。

ここから残り4キロ程の走りが素晴らしい。
ムチが入った馬のようにピッチが上がり、次から次へと前を走るランナーに襲いかかる。

ごぼう抜きとはこのことか。ゴールのテープを切る寸前まで群がるランナーをメッタ切り。ゴールを致しました。

兼子整骨院の応援の「喝」後の走りがあり、手元のタイムで「1時間42分28秒」後半4キロで勝負は決まった。

好記録でゴールです。昨年と同タイムではありますが。後半の走りが素晴らし過ぎる。

この10年、私の前に後に現れ、私を脅かす人物がいた。勝手ながら「エンピツ氏」と命名している。もちろん「のっぽのサリー」でもよかったのだが。

「好敵手」である。好敵手がいないとマラソン自体が味気ないものになる。

鉛筆に例えれば、日本の「三菱 HI·UNI」、ドイツの「ステッドラー」鉛筆がある。どちらも素晴らしい。50メートル線を引き続けても乱れが一切ない。

この2本はまさに好敵手である。

エンピツ作家の私が申し上げるのだから間違いない。

もし、どちらかを選びなさいと言われれば迷わず三菱 HI·UNI と答えた所だが、三菱鉛筆の色は茶色。ステッドラー鉛筆はブルー。

ブルーが好きな私はステッドラーの鉛筆を選んでしまう。そんな私をお許しください。鉛筆の世界でも好敵手がいるのですね。

大会の結果をエンピツ氏との比較でご覧いただこう。

タイム

三枝樹氏----- 1 時間 4 2 分 2 8 秒

エンピツ氏----- 1 時間 4 5 分 4 0 秒

ラップ記録-----三枝樹氏-----エンピツ氏

5 キロ----- 3 2 分 5 6 秒----- 3 2 分 5 2 秒

1 0 キロ----- 3 1 分 4 6 秒----- 3 1 分 5 5 秒

1 5 キロ----- 3 1 分 2 5 秒----- 3 3 分 2 8 秒

1 6 キロ----- 0 6 分 2 1 秒----- 0 7 分 2 5 秒

解説

レース終盤残り 4 キロでの「兼子整骨院」の突然の「喝」以後のタイムの推移に目を向けよう。10 キロまでは全くの同タイム。残りの 4 キロ、風のような私の走りがすばらしい。

さらにラスト 1 キロは疾風のごとく駆け抜ける忍者の走り。タイムを見るだけで「ああ～快感」。

- * 残念な事、または喜ばしい事は、エンピツ氏はこの事実を知らない。さらに私が出場している事実さえ知らないかもしれない。
- * この記録の全ては、ネットで検索して引き出された情報だから。ネットは恐ろしい。忍者の時代は終わった。吐息でネットといっておこう。